

「世界遺産」全国コンテスト

世界自然遺産・白神山地をよく知らない中高生に、白神の魅力伝えたい。世界遺産を活用した観光地の持続的な発展を考えるコンテストで、青森南高校（青森市）2年の山崎詠弓さん（17）と千葉想代子さん（17）のチームが優秀賞を受賞した。白神山地のガイド減少や観光マナーの悪化といった課題に向き合い、

白神の持続的観光提案

自分たち高校生にできる取り組みを提案した。2人が応募したのは、世界遺産について学び、その課題や解決策を持続可能な開発目標（SDGs）と結びつけて考える探究型コンテスト「世界遺産×SDGsチャレンジ」（NPO法人世界遺産アカデミーなど主催）のプレゼンテーション部門。全国から223チームの応募があり、課題別の審査の結果、最優秀賞に次ぐ優秀賞3チームに選ばれた。山崎さんが深浦町出身で、地元の十二湖・青池に思い入れがあることから白神山地をテーマに選んだ。観光地としての白神山地を盛り上げるため、一県内中高生向けのウッドチップの敷設体験で愛着を持ってもらう「観光コースを外れないよつ、コース上にクイズを設置する」などの取り組みを提案。審査員から

山崎さん、千葉さん（青森南2）優秀賞



「若い世代に世界遺産の魅力を知ってほしい」と話す山崎さん（写真左）と千葉さん

は、自分事として考えた身近なアクションである点が高く評価された。白神山地が今年、遺産登録から30周年を迎えることを踏まえ、山崎さんは「企画を実現し、もっと自分たちから白神山地について発信したい」と意気込む。コンテスト参加を機に白神山地を詳しく知ったという千葉さんも、「こんなにきれいな場所があるとみんなに伝えたい」と語った。

（太田佳希）

東奥日報 2023年（令和5年）3月31日（金）掲載
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。